



環境経営レポート 2024

対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日

発刊日

2024年8月23日



緑でネットワーク

九州林産株式会社





目次

- P1 会社概要
- P2 事業案内
- P3 トピックス
- P4,5 事業活動と環境経営の一体
- P6,7 2023年度
環境経営目標・実績・評価
- <主な取組内容>
- P8 環境経営方針Ⅰ
脱炭素社会への貢献
- P9 環境経営方針2
循環型社会への貢献
- P10 環境経営方針3
自然共生社会への貢献
- P11 環境経営方針4
社会との協調
- P12 環境経営方針5
環境管理の推進
- P13 これまでの環境活動による成果
- P14 代表者(社長)による全体の評価と見直し・指示
- P15 2024~2026年度
環境経営目標・環境経営計画

社長挨拶



自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します

当社は、この企業理念に向け、森林管理事業や造園・緑化事業、官公庁所管施設の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、緑を通じた社会貢献に努め、持続可能な社会の実現に取り組んでまいりました。2023年度は、社内でDX推進チームを組織し、ペーパーレス化や業務効率化への取組みを行いました。今年、創立75周年を迎え長年培った知見を活かしながら、今後も事業活動と環境経営を一体のものとして着実に推進してまいります。

2024年 8月
代表取締役社長 小塩 正己

会社概要 (2024/3/31現在)

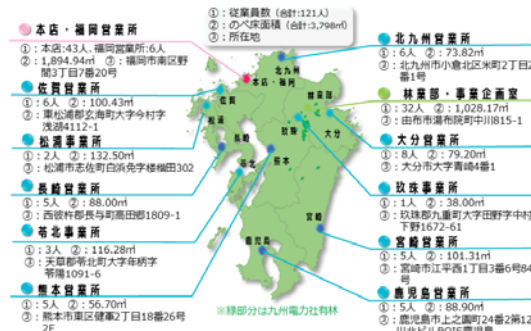
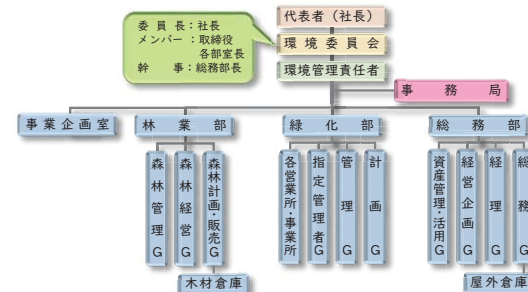
社名 九州林産株式会社 代表者 代表取締役社長 小塩正己 資本金 4億9000万円 売上高 33億5600万円

事業活動 土木工事業、造園工事業、とび・土工工事業、園芸事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業ほか
許認可 国土交通大臣許可 特3-第1615号 特定 造園工事業、特定 土木工事業、特定 とび・土工工事業

主な資格取得一覧

造園施工管理技士(1・2級)	53名
土木施工管理技士(1・2級)	46名
造園技能士(1・2級)	8名
建築士(1・2級)	2名
測量士	1名
公園管理運営士	2名
林業技士	8名
森林情報士(1・2級)	3名
森林管理士	9名
森林インストラクター	4名
森林施業プランナー	4名
環境教育インストラクター	5名
ピオトープ管理士(1・2級)	6名
衛生管理者	2名
建設業経理士(1・2級)	14名

EA2I推進体制 (対象範囲:全組織・全活動)



環境管理責任者 総務部 経営企画グループ
グループ長 徳留 雅大

連絡先 092-562-3014

ホームページ <https://www.q-rin.co.jp>



沿革

1919
九州水力電気(後の九州配電)が大分県の原野造林に着手

1923
自社生産苗による植林開始

1949
九州配電(後の九州電力)の林業部門から分離・独立し、九州林産が発足!九州配電社有林の森林経営を受託

1965
電柱が木製からコンクリート製に移行し、電柱材供給としての役割終了

1965
造園・園芸事業に参入

1973
九電グループ内での緑化・環境保全業務の実績を踏まえ、グループ外の造園工事や工場緑化へと事業を拡大

2005
九州電力社有林がFSC®森林認証(FSC®C018956)を電力会社として初取得

2008
公園などの指定管理者業務へ参入・EA2I認証取得(本店)、翌年全社認証を取得

2014
・「生物多様性ガイドライン」作成
・環境教育の場として九州電力社有林内に「くじゅう九電の森」を整備

2016
九電みらい財団と本格的な環境教育への取組み開始

2021
九州電力社有林でのJ-クレジット創出取組み開始

2022
早生樹の試験植栽開始

事業案内

緑化事業

● 緑化工事



鉄塔の敷地保全、発電所や変電所の緑化工事、公共の公園整備などを施工しています。

● 緑地維持管理



これまで手がけた緑地や公園等を美しく維持管理しています。

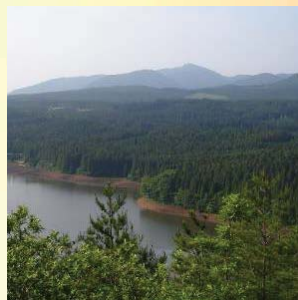
● 指定管理者業務



公営の公園・農園の管理運営を行っています。

林業

● 九州電力社有林管理



九州電力社有林を適切に管理し、水源かん養、生物多様性の維持、CO₂削減に努めています。

● 森林整備



安全性・生産性向上のため、高性能林業機械を導入し、国有林・県有林の伐採などの施業を行っています。

● 木材販売



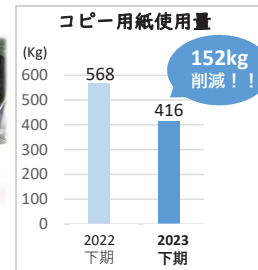
九州電力社有林や国有林・民有林などで生産した丸太や製材品を販売しています。

トピックス

ペーパーレス化

会議室に無線LANを設置し、会議や研修時にパソコンを活用できるよう整備したことにより、資料のペーパーレス化を実現しました。また、デュアルモニター(2画面)を導入することにより、複数の資料を同時に確認する際の紙出力が不要になり、紙使用量の削減に繋がりました。
2023年10月から本格的にペーパーレスに取り組んだ結果、コピー用紙の使用量は下期(10月~3月)の前年同期比で152kg(約27%)※減となりました。

※本店ビルでの実績



九電みらい財団が森づくりを進める「いさはや九電みらいの森」での環境教育

2023年10月に、^{いさはや}諫早市で小学生を対象に、苗木の生育を阻害する下草の除草作業と環境教育を行いました。



当社FSC®森林認証木材を使用したAPU新教学棟がウッドデザイン賞を受賞

九州電力社有林は持続可能な森林経営を行っている証である「FSC®森林認証」を取得しています。この認証木材を使用したAPU(立命館アジア太平洋大学)新教学棟が2023年10月に「ウッドデザイン賞」を受賞しました。



企業理念

- 1 自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します。
- 2 技術力を高め、すぐれた製品とサービスを提供し、お客さまの信頼にこたえます。
- 3 創造力と行動力をつちかひ、活気溢れる企業風土をつくります。

事業活動と環境経営を一体とした

環境経営方針1 脱炭素社会への貢献

脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めます。

CO₂吸収蓄積量
142.7万t

九州電力社有林面積
4,447ha 福岡県小郡市と同じくらい
木材生産量 成長量
13,117m³ 29,472m³ 人工林のみ

環境経営方針2 循環型社会への貢献

廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材など未利用資源の有効活用等に取り組み循環型社会の形成に貢献します。



環境経営方針3 自然共生社会への貢献

事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。

環境経営方針4 社会との協調

環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。

環境経営方針5 環境管理の推進

取り組み



将来のCO₂吸収量の増加に向けて、早生樹の試験植栽に取り組んでいます。
p.8



p.9



p.10



p.11

SDGsの達成



【環境経営方針】

制定日：2007年12月14日
改正日：2024年 3月18日
九州林産株式会社
代表取締役社長 小塩 正己

2023年度環境経営目標・実績・評価

環境経営方針	環境経営目標	※1実績	主な取組み内容	取組評価			
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	二酸化炭素排出量(単位:t-CO ₂)※2	281以下	248	・窓ガラスに遮熱断熱フィルム貼付 ・冷房28℃、暖房19℃に室温を設定 ・昼休みの消灯	○	
		電力消費量(単位:mWh)	209以下	185	・燃費ランキング表彰を実施 ・エコドライブの実施	○	
		車両燃料消費率(単位:km/ℓ)	13.9以上	14.2	・ボツの余り水を掃除や植物の水やりに活用	○	
	カーボンニュートラルの実現	事業所における省資源活動の推進	上水使用量(単位:m)	801以下	728		○
		カーボンクレジット創出支援	提案営業(単位:件)	4以上	4	・自治体等へカーボンクレジット創出支援の提案を実施	○
		空調設備の点検を各所で実施					○
オン層の保護	規制対象フロアの回収徹底と代替への取組み					○	
	オール電化の推進					○	
電化の推進	社有車のEV化推進					○	
						○	
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg)	1,365以下	1,187	・一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底	○	
		産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	95.0以上	99.8%	・産業廃棄物の分別徹底 ・産業物の再資源化	○	
		環境リサイクル事業の積極的活用	現場	95.0以上	92.0%	・産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底	○
	グリーン購入の徹底	循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)	54.0以上	56.8%	・未利用材の利用拡大に向け、販路拡大に努力	○
		コピー用紙購入量削減	コピー用紙購入量(単位:kg)	2,987以下	2,526	・会議・研修資料のペーパーレス化、縮小・両面印刷、裏面利用を実施	○
		事務用品(紙類、文具類)とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)	95.0以上	99.6%	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	○
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する事業活動の展開	緑化工事受注件数(単位:件)	190以上	250	・積極的な提案営業が受注実績に結びつき、緑豊かな社会に貢献	○
		生物多様性への取組み	希少種の保全活動			・希少種監視活動を12回実施(25種を確認)	○
		事業における環境リスクの低減			・施業前後にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認	○	
	環境上の事故及び緊急事態への準備・対応	化学物質使用量の削減				・代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質を抑制	○
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応				・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施	○
							○
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境情報の積極的な公開			・環境経営レポートを営業活動時や就職説明会などで配布(32部) ・ホームページでのレポート公開	○	
		環境経営レポートの内容充実と積極的な活用					○
	地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み				・社内外の清掃活動、計16回に延べ111人の社員が参加 ・九電みらい財団と協働し環境教育を計8回開催(次世代向け364人・親子向け92人参加)	○
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に合わせたEMSレベル向上への取組み			・内部監査(運用業務支援)を9箇所実施	○	
		環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定			・環境関連データの全社大での確実な把握	○	
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み			・取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施し改善	○	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境会計データの確実な把握と活用				・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表	○
		環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加				・社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ2回参加	○
		九電グループネットワークの活用による環境情報の共有化					○
環境関連法令の遵守徹底	環境法規制等の特定				・環境関連法規等を特定し、遵守状況を確認	○	
	環境法規制等遵守状況の確認・評価					○	

※1 〇の項目は現場の数字を除く
 ※2 二酸化炭素排出量の電力消費量は、九州電力の2021年度調整後排出係数(0.385kg-CO₂/kWh)を乗じて算出

実績グラフ(2013年度を基準とした実績・効果)



環境経営方針1 脱炭素社会への貢献



脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めます。

節水型トイレの導入

本店のトイレの経年劣化に伴い、節水型トイレに入れ替えたことで、上水使用量を削減することが出来ました。

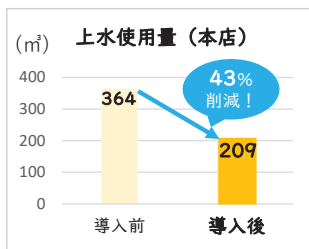


節水型トイレ

節水量

大洗浄：10L→4.8L
(52%節水)

小洗浄：8L→3.6L
(55%節水)



窓ガラス遮熱断熱フィルム貼付

本店ビルの職場環境の改善や省エネ推進の観点から、ガラス窓に遮熱断熱フィルムを貼付しました。これにより冷暖房等の消費電力量低減が期待できます。



会議室窓



1Fエントランス

燃費ランキング

北九州営業所では、2015年度から車両燃費向上のため、独自に表彰制度を設け、所員全員で燃費改善に取り組んでいます。



早生樹の試験植栽

当社では、2022年度から早生樹の試験植栽を実施しています。早生樹はスギやヒノキに比べて成長速度が早いので、木材のCO2吸収量の増加に貢献できると考えます。今後は、早生樹の育成手法及び活用方策の検討を進めていきます。



環境経営方針2 循環型社会への貢献



廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材など未利用資源の有効活用等に取り組み循環型社会の形成に貢献します。

一般廃棄物の分別

廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する自治体の基準に沿った分別の徹底に努めています。



ステッカーを貼り分別を徹底しています

機密文書を含む古紙リサイクル率100%の取組が定着しています



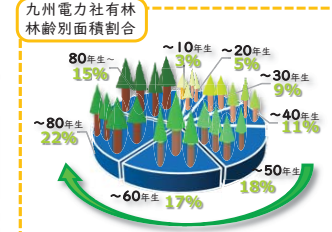
機密文書廃棄専用袋

森林経営の実践

森林を50年・100年後の未来にも残せるように、持続可能な森林経営を実践しており、計画的な資源循環に努めています。
(標準伐期：55年生以上)



持続可能な森林経営



九州電力社有林 林齢別面積割合

DX推進の取組み

人材育成と技術力継承を目的に、イノベーションスクールを開催しています。2023年度は「DX推進による業務改革」をテーマに開催し、DX先進事例等について学びました。

また、部門横断のメンバーで「DX推進チーム」を組織し、遠隔操作ソフト・電子回覧の導入などのアイデアを検討しました。今後、導入に向けた検討やDXに取り組むことで紙使用量の削減や事務効率化により、循環型社会への貢献に努めていきます。



環境経営レポート表彰

当社の事業活動と環境経営の取組みを「環境経営レポート」として取りまとめ、『エコアクション21レポート大賞・九州』の表彰制度に応募し、様々な賞を受賞すると共に全国規模の『エコアクション21オプザイヤー』の受賞に向けても挑戦をしています。
※環境経営レポートのバックナンバーは、当社HPにてご覧頂けます。



「外部コミュニケーション優秀賞」

「九州環境カウンセラー協会特別賞」

「九州地方環境事務所長特別賞」

環境経営方針3 自然共生社会への貢献



事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。

多様な生物生育環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、改善策の検討・提言に取り組んでいます。

希少種の保全活動（九州電力社有林内）

巡視活動

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を実施しています。



ヒメユリ



サワギキョウ



シラヒゲソウ



サギソウ



アギナシ



チョウセンスイラン

巡視活動で確認された希少植物25種（2023年度）

- ・アギナシ
- ・オオイヌノハナヒゲ
- ・カキラン
- ・クサレダマ
- ・コタヌキモ
- ・コバノトンボソウ
- ・サギソウ
- ・サワギキョウ
- ・シムランジン
- ・シラヒゲソウ
- ・タチカモメヅル
- ・チョウセンスイラン
- ・トキノソウ
- ・ヌマクロボスゲ
- ・ノハナショウブ
- ・ヒメユリ
- ・ホザキノミミカキグサ
- ・ミカヅキグサ
- ・ミズオトギリ
- ・ミズチドリ
- ・ミズトシボ
- ・ミタケスゲ
- ・ミミカキグサ
- ・ムラサキミミカキグサ
- ・モウセンゴケ

定点植生調査

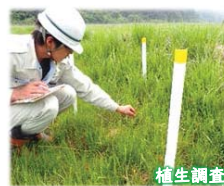
湿地帯の希少植物群生地においては、コドラード(区画)法による植生調査を行っています。シラヒゲソウ等湿生植物の個体数調査の結果、2023年度においても湿地帯の植生が維持されていることを確認できました。



1m×1mのコドラード法



シラヒゲソウ



植生調査

定点写真観測

くじゅう地域の代表的な希少種であるミヤマキリシマの定点観測・調査をしています。また、支障木を伐採する活動を行っています。



2015年度



2023年度

2023年度は、シャクガの幼虫により開花数が減少しましたが、過去の傾向から、植生は自然に回復すると見込まれます。

環境経営方針4 社会との協調



環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。

九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務の中で、地域の方々や地場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、参加される多くの皆さまと環境コミュニケーションを展開しています。

九電みらい財団の「くじゅう九電の森」における環境教育

九電みらい財団とともに、九州電力社有林を舞台とする環境教育に取り組んでおり、2023年度は開催回数12回、参加人数456人でした。



森の講話



間伐体験



森の役割実験

事業活動を通じた地域社会との協調

指定管理者施設における各種イベント

指定管理者施設において、地域に根付いた公園・農園の管理運営を行っています。各施設では、体験学習・ボランティア活動・収穫祭・スポーツ大会など、様々なイベントを開催しています。



ぶどう収穫体験



やさい収穫体験



いちご収穫体験



しめ縄作り

合同清掃活動

2023年11月に近隣の九電グループ会社共同(4社※)で、塩原中央公園(福岡市南区)の清掃活動を実施しました。

※九州高圧コンクリート工業(株)・九電テクノシステムズ(株)・九州電力(株)総合研究所・九州林産(株)



1時間後..



環境経営方針5 環境管理の推進



環境関連法規の遵守はもとより、環境関連情報の共有化を図り、全社一体となって環境マネジメントシステムの品質向上に努めます。

主な環境関連法規の遵守状況

事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、災害や事故に起因する環境関連法規に関するステークホルダーからの指摘や訴訟もありませんでした。

全社に共通	緑化事業に関係	森林管理事業に関係
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性基本法 ・建設物省エネ法 ・温暖化対策推進法 ・グリーン購入法 ・循環型社会形成推進基本法 	<ul style="list-style-type: none"> ・フロン排出抑制法 ・建設リサイクル法 ・浄化槽法 ・廃棄物処理法 ・家電リサイクル法 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林法 ・自然公園法 ・オフロード法 ・消防法

環境マネジメントシステム (EMS) レベル向上に向けた取組み

EA2I 中間審査

EA2Iでは、当社EMSレベルの定着状況について第三者による審査を受けています。



環境委員会

環境経営の一環として、環境委員会を年2回開催し、環境活動実績の評価・見直し・環境経営計画・環境経営目標など必要事項を審議・決定しています。

エコアクション21レポート大賞・九州での受賞と事例発表

2023年度環境経営レポートが「エコアクション21環境経営レポート大賞・九州」において、「九州地方環境事務所長特別賞」を受賞しました。表彰式では数多くの会社の方が参加される中、当社の環境経営の取組み事例を紹介させていただきました。更に環境経営レポートをより良いものにするため、社内アンケートを実施し、その結果を反映させたレポート作りを心掛けました。



九州地方環境事務所長さま(左)から賞状の授与

発表はリモート口

環境上の緊急時対応訓練の実施

環境事故の未然防止の観点から、緊急事態を想定した訓練を実施しています。

1. 燃料漏れが発生(想定)し、すぐに鋸くずを散布し吸収!
2. 洗剤を散布
3. ブラッシングし、安全に処理*



吸収した鋸くずは産廃処理します!

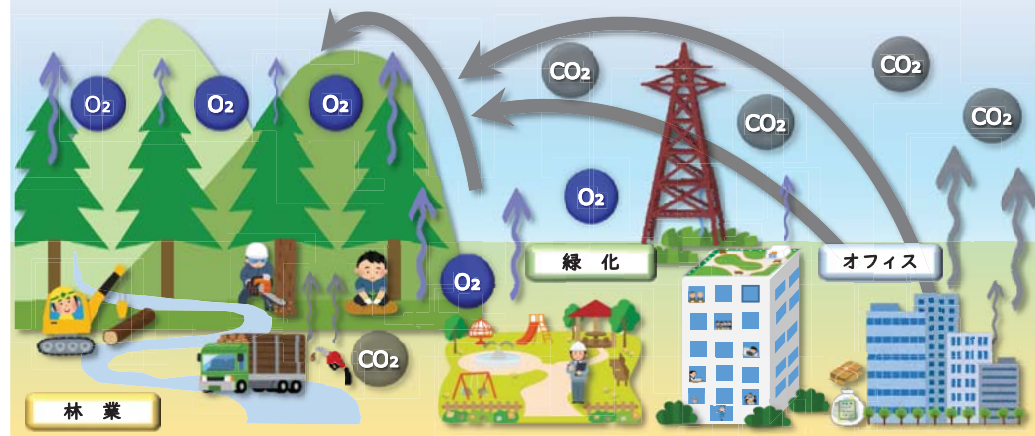
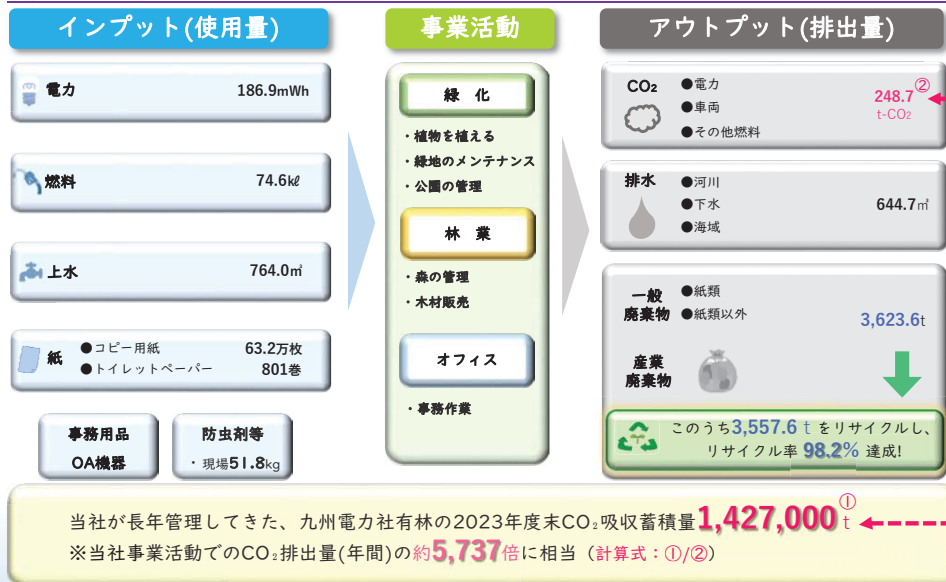
これまでの環境活動による成果 (現場実績含む)

コスト削減額

分類	単位	物 量					削減額 (2013年差)	分類	金 額 (単位: 千円)					削減額 (2013年差)
		2013年度	2021年度	2022年度	2023年度	削減率			2013年度	2021年度	2022年度	2023年度		
電力	mWh	430.0	214.7	205.2	186.9	243.1	電力	13,145	6,563	6,272	5,714	7,431		
車両燃料	㎏	93.91	72.9	72.7	70.1	23.8	車両燃料	16,326	12,775	12,741	12,328	3,997		
その他燃料	㎏	3.8	14.5	11.5	4.5	-0.7	その他燃料	425	1,617	1,279	506	-81		
水道	m ³	930.0	944.0	922.5	764.0	166.0	水道	380	396	377	312	68		
廃棄物処分	t	384.0	22.6	129.6	66.0	318.0	廃棄物処分	384	138	351	107	277		
廃棄物リサイクル	t	3,776.0	2,217.2	1,498.7	3,557.6	218.4	廃棄物リサイクル	4,174	7,462	4,323	4,648	-475		
合 計							合 計	34,201	28,942	25,343	23,616	10,585		

2023年度は、2013年度比で、**10,585千円削減!**

マテリアルバランス (2023年度)



代表者(社長) による全体の評価と見直し・指示

環境委員会を開催し、2023年度の環境経営・環境活動に対して、代表者(社長)から以下の通り全体の評価と見直し・指示がありました。

✓ 全体の評価

環境経営方針に沿って、環境経営目標(定量・定性)とその達成に向けた取組みを示す環境経営計画が着実に実践されており、事業活動と環境経営を一体のものとしてしっかりと推進しているものと認識しています。
私たちの取組みは「九州地方環境事務所長特別賞」受賞という成果で社外から一定の評価をいただきました。

✓ 見直し・指示

環境活動項目毎の評価及び見直しについて、引き続き環境活動の品質水準に磨きをかけていく観点から、以下の諸点を検討して下さい。

● 環境経営レポートの活用について

環境経営レポートの社内アンケート結果を踏まえた上で、当社とお客さま等とを繋ぐコミュニケーションツールとして活用できるレポートづくりを継続してください。

● ペーパーレス化の促進について

DX推進チームの取組みと併せて、紙による会議資料・回覧の削減や、資料の電子化などのペーパーレス化の促進を行ってください。

代表取締役社長 小塩 正己



環境経営方針	2024～2026年度				
	環境経営目標(各年度)		主な環境経営計画		
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量(単位:t-CO ₂)	280以下	・空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底 ・パソコン、プリンタ等の不使用時電源オフの徹底 ・始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 ・エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進
		運輸面でのCO ₂ 排出抑制の推進	電力消費量(単位:MWh)	191以下	
	事業所における省資源活動の推進	車両燃料消費率(単位:km/ℓ)	14.0以上	・車両更新時における低公害車への計画的切替の実施 ・エコドライブの確実な実施	
		上水使用量(単位:m)	707以下	・節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行	
	カーボンニュートラルの実現	J-クレジット創出支援		・自治体等へJ-クレジット創出支援の実施と新規受注に向けた提案の実施	
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	産業廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg)	1,306以下	・一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底
		産業廃棄物リサイクル率(リサイクル工場/発生量)(単位:%)	現場	95.0以上	・産業廃棄物(水銀使用製品含む)の分別徹底 ・産業マニフェストの適切な通用及び適正処理確認の徹底 ・機密文書、使用済蛍光灯及び乾電池のリサイクルの実施
	循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)	45.0以上	・林地残材の有効利用率の向上、及び間伐における低質材の利用向上	
	コピー用紙購入量削減	コピー用紙購入量削減の徹底	コピー用紙購入量(単位:kg)	2,590以下	・縮小・両面印刷、裏面利用を推進すると共に、会議資料のペーパーレス化を実施
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	グリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)	95.0以上	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底
		自然共生社会の形成に寄与する緑化事業活動の展開	植林・植栽を含む緑化工事件数(単位:件)	40以上	・緑豊かな環境づくりを通じた社会貢献を目指すため、植林植栽を含む緑化工事を推進
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境経営レポートの内容充実と積極的な公開・活用	希少種の保全活動	・定期的な情報収集とマッピング ・蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理へ向け各種活動の展開・改善を実施	
		地域に密着した環境活動への取組み	事業活動における環境リスクの低減	・チェックリストの活用・充実 ・各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施工推進並びに施業完了後の影響評価の実施	
	地域における環境活動の推進	化学物質使用量の削減	・PRTR制度対象物質の使用量の把握(協力会社も含む) ・周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類及び代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制		
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応	・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善		
5 環境管理の推進	環境データの確実な把握と目標管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSLレベル向上への取組み	・内部監査の際、EA21監査(通用業務支援)を同時に実施	
		環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定	・環境関連データの全社大での確実な把握に努め、的確な目標管理と設定目標の実効性向上		
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み	・環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施		
	環境会計データの確実な把握と活用	・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表			
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施、参加	・九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加するとともに、社内環境勉強会を検討・実施		
環境関連法令の遵守徹底	九電グループネットワークの活用による環境情報の共有化	・九電グループネットワーク「九電グループ環境情報」を積極的に活用し、環境情報を提供			
環境法規制等の特定	・環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗い出し(棚卸し)を確実に実施				
環境法規制等遵守状況の確認・評価	・環境関連法規等遵守状況の確実な把握と評価				

